

# 11月4日 JAL 本社包囲に700名

## JAL の不当労働行為認定！

9月23日、解雇に至る過程で JAL が不当労働行為を行ったことが最高裁で確定した。

2010年11月にスト権投票を行っていた客室乗務員・乗員の組合に対し、「争議権が確立したら支援機構から予定している3500億円を支払わない」と恫喝したことが、不当労働行為であると認められました。

オリンピックに例えると、解雇裁判で金メダルは取ったものの、ドーピング検査で薬物反応が出てメダルをはく奪されたことと同じである。

## 世界中の航空会社で例のない解雇基準

経験豊かなパイロットや客室乗務員は、お客様に安全と安心を与える存在なのに、JALは55歳以上の機長・48歳以上の副操縦士・53歳以上の客室乗務員たちベテランを解雇しました。

さらに、一定日数以上の病欠者と病気休業した者も解雇基準に加えました。これでは体調が悪くても無理して乗務することになり、空の安全を脅かすことになります。この基準で、希望退職に応じない者を解雇しました。

## 3労組統一要求書提出

10月19日、機長組合と乗員組合、キャピンクルーユニオンの3労組が「JAL は解決交渉のテーブルに着け」と要求して、統一要求を提出しました。

職場復帰を希望する解雇者を復帰させること。再雇用を希望する希望退職者・特別早期退職者に再雇用への道筋をつけること。争議解決を通じて労使関係の正常化・職場の信頼関係の再構築・安全運航の推進に全力をあげるように要求しました。

ユニオンも、3労組統一要求を支持する団体署名を提出しました。

当日は午後6時に京急線新馬場駅近くの聖蹟公園に結集し、モノレール線天王洲アイル駅前の JAL 本社前までデモをしました。ユニオンは6名で参加。集会後ユニオンネットお互いさまの組合員と合流し交流会がもたれました。

### 今後の予定

12月6日(火)・11:00～ JAL プラザ前宣伝 13:00 座り込み～  
7日(水) 13:00 JAL プラザ前座り込み～ 21日(水) 18:00～  
JAL-DAY 一斉宣伝～19:00 22日(木) 大望年会文京区民センター  
18:00 3000円



## 佐野さんの裁判日程

- 12月7日 佐野さんの解雇問題に対する裁判  
 時間：13時20分より  
 場所：横浜地方裁判所 川崎支部
- 12月9日 東日興運社に対する損害賠償裁判  
 時間：10時15分より  
 場所：横浜地方裁判所 川崎支部

\*尚、裁判運行上二つの裁判は、一つにされる  
 ことがあります。

## 12月のスケジュール

12月	1日	(木)	例会	午後	6:30	西蒲田
12月	5日	(月)	昼ビラ	午後	12:00	大森東口
12月	15日	(木)	運営委	午後	6:30	西蒲田
12月	22日	(木)	学習会	午後	6:30	西蒲田
12月	25日	(日)	機関紙	午後	1:00	西蒲田
11月	26日	(月)	機関紙	午後	1:00	デイベ

働く仲間の相談センター

京浜ユニオン  
 ニュース

2016年  
 12月1日  
 NO.253

〒144-0051

東京都大田区西蒲田4-32-9  
 労働組合・京浜ユニオン  
 TEL 050-3410-6240  
 FAX 電話と同じ  
 振込口座 中央労働金庫蒲田支店  
 8055997 京浜ユニオン

働く仲間の相談センター

Ex-ll keihin.yunion@wonder.ocn.ne.jp ホームページ http://keihin3762.sakura.ne.jp/  
 Ex-ll keihin.yunion@wonder.ocn.ne.jp ホームページ http://keihin3762.sakura.ne.jp/

# 外国人技能研修制度について(1)

最近、「派遣会社で給料半分しかもらえない。会社辞めると、労働ビザがなくなりよそで働けない」との外国人の相談があったので、どういふことか調べてみた。日本にどれくらいの外国人労働者がいるか。数字を集めてみた。専門的・技術的労働者(大卒留学生や風俗従事者)18万人。定住者(日系人他)37万人。技能実習生19万3千人。留学生24万7千人。不法在留者17万人。全外国人居住者は223万人。在留資格者は97万人。特別永住者38万人。

## 19万人の技能実習生の問題

都会のコンビニや飲食店では外国人の店員が当たり前。建築現場でも外国人を多く見かける。田舎にいけば、農業や水産加工業では外国人労働者は戦力になっている。小子高齢化によって、日本の労働人口は減り続けています。とりわけ体力が必要で、賃金の安い働き手が不足している。しかし日本は「単純労働」でのビザの発行をしてないため、技能実習生という制度を作って受け入れている。

## その実態とは・・・

弁当やサンドイッチの製造工場・宅配便の仕分け・新聞配達。いずれも日本人が嫌がる夜勤の肉体労働にたくさん働いている。

しかし、その扱いには多くの問題があるようだ。

**Aさんの場合。**会社から60万円の借金があるとわれ、月々の給料から返済金として、2万円、積立金として1万円を天引きされている。時給は最低賃金以下の800円で働かされた時期もあった。

**Bさんの場合、**87万円を借金して、斡旋業者に料金を支払い日本にきている。日本で充分稼げないため、母国に帰れない。

雇い主に「話が違う」と訴えても、本国の送り出し機関に言えと言われる。日本の役所に訴えて、もし受け入れ中止になったら、帰国させられ借金だけ残る。そのため、無き寝入りさせられている。

**C・D・Eさんの場合、**1日16時間・週6日働き、昼休みは15分。給料は4ドル(当時1ドル85円)

逃げ出した実習生には別のブローカーが他の企業や農家を紹介して儲ける。逃亡した元実習生なら安く使えろと考え食べ物にする。

ネットで調べると、上のような例が出てくる。相談の人の賃金は「半分とられる」といふのは事実のようだ。これでは、現代の奴隷制度。

(紙面の都合で続きは次号で)

# 南部全労協主催沖縄ツアーの報告と感想

( 要旨 )

開田泰憲

10月2日の午後2時頃、私たちの一行は那覇空港に着きました。私にとっては初めての沖縄です。

3台の車に分乗し佐喜眞美術館へ。ここには戦争の実態を告発する絵画がたくさん並べられていました。奥の大壁には、丸木位里、丸木俊によって描かれた「沖縄戦の図」が展示され、私たちより少し早く入館した40～50人の若者が絵の説明を受けていました。「芸術の力」で戦争と歴史の実態を若者に伝えるという目的をしっかりと果たしていました。

10月3日 (月曜日) この日は台風の真っ只中、外出することができず、地元の川野名護市議から沖縄の闘いの報告を受けました。川野さんは、過去、現在の闘いを詳しく説明され、今の「オール沖縄」は沖縄の民意と政治が一体化した中でできたこと。今後も今まで通り沖縄差別と闘い続けていくことを表明されました。

4日は、元世田谷区職の山本英夫さんの案内で高江に向かいました。

N1ゲート前は、作業員の車、警備員の車、警視庁の車が並んでいる。その先に車を止めゲート前へは徒歩で。山は、イタジイの木にビッシリと覆われている。(これがブロッコリーの森といわれている) 希少動物たちの住み家でもある。ここに轟音を響かせてオスプレイが低空で飛び交うなんてとんでもないと思った。

次に一旦引き返し、N1裏のゲートへ、周りはパイン畑の農道をブルーシートの剥がしてある座り込み用のテント村に到着。少し見学していると山城氏と事務長パク氏が様子を見て現場に現れました。山城さんは「7月から工事を強行された。あらゆる手を使い抗議行動。国は今年中に作ると言っているが、この台風で月、火と工事が止まっている。水曜日にも行動で止める。そして時間切れに追い込む。」力強く訴えられました。

高江地区を離れ、次に向かったのは大浦湾を陸から見渡すことができる二見地区に移動した。浜辺に出て、湾の右側につき出た先端が、国により基地建設がすすめられようとしている辺野古崎。そこに2本の滑走路と、艦船が停泊する岸壁を作ろうというのである。

夜、アジトミさん、山本さん、辺野古の船長中曽根夫婦と共に交流会を開いた。

アジトミさんは(自治労出身)「オール沖縄統一戦線を誇らしく思う」と。そして、「国は、市を通さず、町や村に寄付金をばらまいている。分断、いやがらせをやっている。歴史は民衆が作るもの。支援してくれる仲間と連帯し、東アジア交流の拠点としたい。」と。

10月5日は朝早くから辺野古崎へ。今は休戦中のブルーシートのテント小屋へ。しかし、ここは既に台風後の復旧が済んでいて、若干の荷物運びを手伝い、お話を聞きました。いくつもある看板の中に「新基地建設阻止、座り込み4553日」と書かれたものと、「勝つ方法はあきらめないこと」の看板が印象的でした。

ここで、「辺野古基地のゲート前のテントの人手が足りない」との事で全員移動。台風でしまいこんだブルーシートや角材を広げ、座り込み用のテント小屋の復旧に少し汗を掻いてきました。

今回出会った沖縄の方々は、みなさん明るく自信に溢れていたと思います。一連の選挙闘争に勝利し、地方自治体の長としての権限もある。そして圧倒的な民意の後押しがあるからだと思います。

繰り返しになりますがアジトミさんは「オール沖縄統一戦線を誇らしく思う。沖縄の未来を考え社長や経営者とも話をする。歴史は民衆が作るものであり、これからも支援してくれる仲間と連帯し、沖縄を東アジア交流の拠点としたい。」と語り、「未来を変えるのは皆さんの課題」と大きな宿題を与えられました。



# かわら版

## Union

2016年12月1日

### 今月のユニオン行動日程

- 12月5日 ユニオン宣伝行動  
時間：12時～13時まで  
場所：大森駅東口
- 12月7日 佐野さんの解雇問題に対する裁判  
時間：13時20分より  
場所：横浜地方裁判所 川崎支部
- 12月8日 さようなら「もんじゅ」さようなら核燃サイクル 東京集会  
時間：18時30分より デモ：19時30分より  
場所：日比谷野外音楽堂
- 12月9日 東日興運社に対する佐野さんの損害賠償裁判  
時間：10時15分より  
場所：横浜地方裁判所 川崎支部
- \*尚、裁判運行上佐野さんの二つの裁判は、一つにされる  
ことがあります。
- 12月10日 高江オスプレイパッド・辺野古新基地の建設を許さない！  
12.10東京集会  
—最高裁は沖縄の民意に応える判決を—  
時間：集会開始13時30分より \*集会後デモ  
場所：日比谷野外音楽堂

# フジビの解雇を撤回させ、地裁・高裁の不当判決を労働組合の団結で跳ね返そう！！

会社に解雇撤回を求めて、社前に10月3日より28日まで1か月間、組合員は連続座り込み行動を貫徹しました。雨の日も風の日も、一日もひるむことなく、闘う姿勢を会社に示してきました。

座り込みは延べ400名を超える仲間が結集しました。

支援では、地域の仲間をはじめ、同じく解雇撤回で闘っているJAL組合員、韓国で解雇され、埼玉県に本社があり、争議解決を求めて闘っている韓国サンケン労組の挨拶がありました。

座り込み中は、シュプレヒコール、労働歌などで、皆で気持ちを共有しました。10月28日には親会社へ申し入れ行動も行いました。

会社は倒産・破産・全員解雇で、給料・退職金を一切踏み倒しただけでなく、会社が労働委員会で2度に渡り和解の席を蹴った挙句、組合のビラ・横断幕に文句をつけ、「会社のイメージを傷つけたから、損害賠償を払え」と言って労働組合を訴え、解雇された組合役員3人「個人」に対して高額の賠償を請求する「スラップ(恫喝)裁判」を起こしました。

法の番人であるはずの東京地裁、高裁は、会社の言い分を鵜呑みにしたうえ、労働組合法8条「損害賠償の免責」に反した不当判決を出しました。なんと3人に「350万円」払えというのです。

こんな判決がまかり通れば、今認められている労働組合活動さえ、会社からいつでも裁判に訴えられ、労働組合の活動が「個人」の責任にされてしまいます。

訴えられた組合員たちは最高裁に上告しました。フジビの仲間の勝利のため、最後まで支援しよう。(松下)



# ——日本企業の韓国労働者いじめを許すな

## 韓国サンケン労組を支援する会結成集会に参加

11月17日、文京区民センターで、韓国サンケン労組を支援する会結成集会が開かれたので参加した。150人が参加し、会場はぎっしり埋まった。

集会に先立って、一日行動として朝から本社前、サンケン海外営業部前などでの取り組みが行われ、多くの労組・市民団体が参加した、との報告があった。

集会ではまず、主催者の挨拶として金沢・全労協議長がマイクを握った。続いて、11月12日に行われた朴槿恵退陣闘争の動画が上映され、この闘争がなぜ史上最大規模で盛り上がったのか、その背景について、韓国サンケン労組の上部団体である金属労組の活動家がパワーポイントを使って説明した。

続いて、この日に合わせて来日した十数名の韓国サンケンの仲間が自己紹介をし、「律動(ユルトン)」という踊りを闘争歌に合わせて披露した。テコンドーの型を取り入れた勇ましい踊りで、勝利しようという気持ちがひしひしと伝わった。

連帯挨拶があり、最後に支援する会の事務局長である鳥井一平さんが、韓国の仲間を支えていこうと訴え、団結頑張ろうで締めた。

集会後は、近くの居酒屋に移動し、交流を深めた。

韓国サンケンの仲間は10月中旬に日本遠征団を作り、現在3人の仲間が日本に住みながら月曜日から金曜までの平日朝、埼玉県新座市にあるサンケン電気株式会社の前と最寄りの東武東上線志木駅の前で情宣活動を行っている。毎週水曜の12:00-13:00には池袋駅西口近くにあるサンケンの営業部前でも抗議の声を上げている。加えて、労組への支援要請、労働運動などの取り組みなどにも積極的に参加し、支援を訴えている。

京浜ユニオンは10月下旬に支援を決定し、支援する会に入った。本社前抗議行動にも労組で唯一週2回定期的に参加。水曜抗議行動も駆けつけている。

日系企業が韓国の労働者を低賃金で使い、「経営難」を理由に解雇要件(日本と同じ内容)も団体協約(効力は日本と同じ)も全く無視して一方的に解雇し、話し合いも誠実に行わない韓国サンケン。現在地方委で争っている。この問題は私たち日本の労働者の問題だ。国境を越えた労働者の連帯が問われている。

会社の反応は相変わらず全くない。子会社で起きた違法で一方的な不

当解雇なのに、「韓国のことだから関係ない」だと！ 100%出資して作って、社長も任命して、経営内容も監督・指導して、本社の承認なしには韓国サンケン電気は何も動けないのに関係も責任もないと開き直り。地獄に落ちるべき悪徳企業の見本だ。「解雇が撤回されないと生活できない、韓国に帰れない」と必死に闘う韓国サンケン労組の仲間と連帯し、解決の糸口をつかみとっていこう。(迫田)

## 次回の学習会は？

11月25日、11月の学習会は新聞の切り抜きを迫田さんが読んで解説・問題提起し討論した。

### 残業代ゼロ法案反対！

政府は、4月3日、残業代ゼロ法案(過労死法案)を閣議決定した。年収1075万円以上の高度な知識を使う専門職について、残業代の支払い対象から除く事にしようというもの・・・年収がいずれ800万・600万・400万と下げられるのは過去のやり方を見ればあきらかか・・・

### 生活の不安・老後の不安

Sさんは国民年金しか掛けていない。生涯働き続けなければ、5万6万の年金だけでは生活できない。Lさんは連れ合いが亡くなった後、働けなくなったら、日本に残るなら生活保護、そうでないならフィリピンに帰るしかない。現在審議している年金改悪法案は賃金が物価より下がった場合年金額を下げるという内容。今でも低いのにもっと下げるのか！

### 次回12月22日(木)を予定。

次回学習会のテーマは会員のKさんがリストラ解雇に対し、ひとりでも闘った自信の闘いの経験を報告し、ひとりでも敢然と闘うことの大事さを学ぶ。ビラを作り、都労委の文書を書き、応援を頼みと奮闘しました。



# 10月29日～30日福島ツアーに参加して

10月29日常磐道を走る。大熊町、双葉町辺りで線量が上がり、0.3～5  $\mu$ Svと道路脇の線量計が表示する。南相馬のインターを降り東の方向へ、国道6号線に出るとすぐに原町の「道の駅」に到着した。しかし、國分さんの顔が見えない。しばらくして全員下車の指示が出る。お弁当の手当てをされていて、着いた時には建物の中にいらっしやったようだ。風もあって外は寒く、みんな、建物の中でお昼のお弁当を戴く。食事が終わり「希望の牧場」へ向かう。餌場に多く居た牛が今日は見られなかった。牛たちは遠く牛舎の方に居た様だ。2頭の牛だけが餌を食べていた。

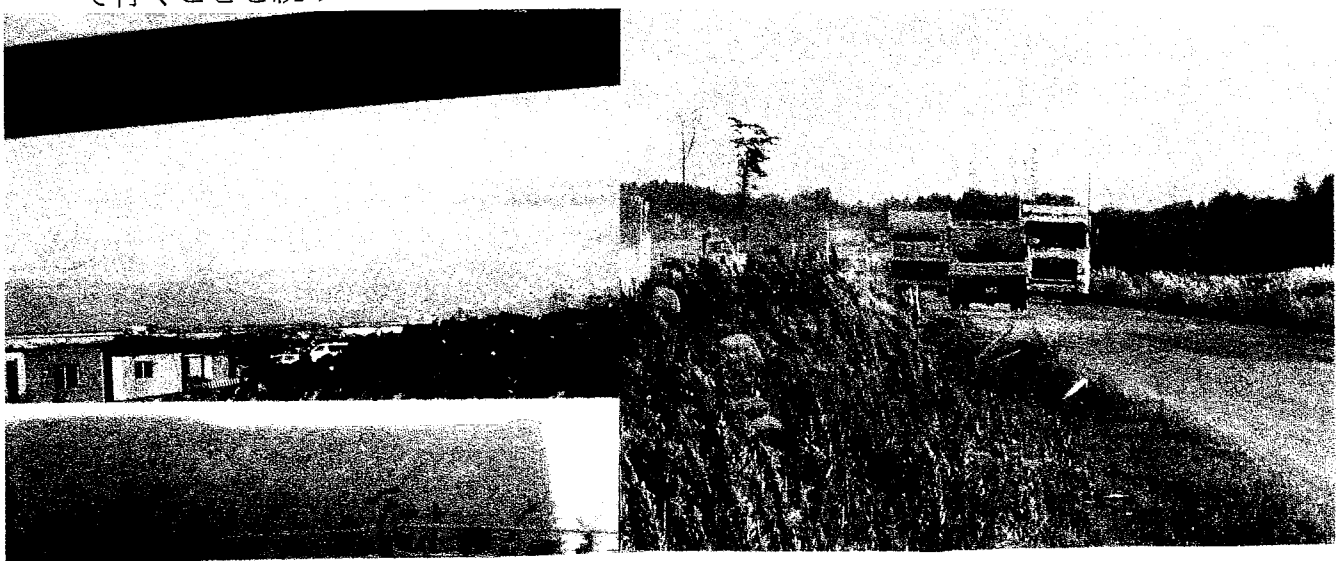
小高の市街地をバスで周った。町は、住民が帰ってくるようにモデルハウスのような物を作っているが、國分さんの話によれば帰るのは数%程度とのこと。町と住民の意識がズレている様だ。

その足で、原発から10km圏内の請戸地区へ。最初に花束を持って来た時(3年前)とは大きく様変わりしていた。以前は津波で流れ着いた漁船と残された数件の家、あとは何もなかった雑草の田畑だった。しかし今は、次々と大型ダンプが行き来し、近づいてみるとフレコンバッグの山である。「仮置き場」となっていたがかなり大規模である。周りを塀で囲っているのは目隠しのためか。このフレコンバッグの山がいつまで残っているのか？ここに人が住める環境が戻ってくるのか？住んでいた人たちはどうしているのか？・・・人災によって村が消されてしまったのではないかという憤りが止まりませんでした。

仮設住宅についての質問に、國分さんは「うつ病が増えている、仮設に入っている人も少なくなった。行くところのない高齢者が残っている。」と。また、國分さんは相馬市に家を新築しましたが、夫人は「会津から5年振りに浜通りに戻ってくると不安です。原発も近いから。」と。

事故から5年過ぎましたが、宛てのない人たちはこれからもずっと不安が募るばかりです。戻ってきた人も、これからの不安、環境の恐ろしさが付きまといます。私たちのツアーも、こうした人たちと交流を続け、聞き、学び、実情を拓けて行くことを続けたいと思います。

開田



# 私たちの声が政治を変える

—11.21 中野晃一講演会報告— 主催：戦争法廃止オール大田実行委員会

講演会の目的は、11.8「大田区から『野党は共闘』の実現をめざす懇談会」に引き続き、改憲を阻止するための野党共闘の深化について考えることだ。

まず、中野先生のお話は、アメリカの大統領選挙から始まった。トランプの勝利はメルトダウンのようなもの。安倍首相はパニックになって、とにかく会うしかないと思ったのだろう。米国に従属することが日本の利益だ、置き去りにされてはいけないと。

また、今は、歴史の分かれ目だ。得票数では勝っていたゴアを破って大統領になったブッシュは、イラク戦争を始めた。得票数で上回ったクリントンを破って大統領になるトランプは、イラク戦争を上回るとんでもない戦争を始める可能性がある。そのとき、日本は戦争法があるので憲法をたてに派兵を断ることはできない。

EU各国でも来年選挙があり、極右党首や政党が伸びてきている。トランプが勝って喜んでいるだろう。世界がポストデモクラシーの時代になった。英国のEU離脱推進者やトランプの熱狂的支持者はデモクラシーをぶっこわそうとしている。排外主義や移民攻撃（敵をつくって分断をはかり得票を得ていくやり方）にもものすごい熱量があり、勝利しているのだ。

そのような『こわす政治』は、公約通りやらなくても「現実路線になった」「穏健になった」とみんなホットしてしまう。一方、私たちの『守りつくる政治』は、たとえ政権についてたとしても全部公約通りにはできず、「裏切った」とみんなにそっぽを向かれてしまう。

自民党の絶対得票率は16%で、6人に1人だ。野党を分断さえできれば国民の支持がなくても勝利できると。だから、我々が分断しては勝負にならない。野党共闘は目標ではない、自公をとめるための手段なのだ。市民の力を強めて、広く野党共闘を進化させていこう。衆議院選挙での野党共闘は、3分の2を阻止することや安倍退陣を可能とする。憎悪と分断、人々がいがみ合う社会ではなく、だれもが個人として尊重されて自分らしく生きられる社会をつくろう。

日本や世界の危機的な状況について認識を新たに、野党共闘について考え直すことができた講演会でした。



## 韓国 100 万人デモに参加

11月11-15日、AWC訪韓団の一員で韓国に行ってきた。いつもましてテンコ盛りの日程だった。最も鋭い情勢分析が提示された日韓労働運動交流会、労働者大会、民衆総決壊大会と百万人デモ、アルバイト労組のデモ、サード配備反対の星州住民ローソク集会、李寿甲先生評伝関連で受けたインタビュー、旭硝子非正規職労組との交流、朴正熙生誕祭へのカウンターデモと右翼との衝突、反原発記者会見、労働党大田支部との交流、米大使館近くでサード配備と日韓軍事情報協定締結とに反対する一人デモをしていた平和と統一を開く人々との偶然の交流、日本大使館前の少女像とそれを守るためにテントに寝泊まりする学生との交流と日本大使館に対する抗議のシュプレヒコール、419 学生革命記念館、戦争記念館。主要課題(縦軸)と現代史(横軸)という韓国の図表を縦横無尽に駆け巡った5日間だった。

以上の経験を経て今思い浮かぶのは、「防御・対峙から反転攻勢へ」という言葉だ。

「希望の時代」を謳って発足した朴槿恵政権は、新自由主義政策の猛推進と民衆運動への苛烈な弾圧によって一つ一つの希望をことごとく踏みにじり、重苦しく巨大な絶望を社会全体にもたらした。最大の武器としての「北の脅威」の扇動、公務員労組と教職員労組の法外組織化、進歩政党の強制的解散と国会議員の逮捕、多くの高校生が溺死したフェリー沈没事故の放置と無関心、歪んだ歴史教科書の国定化、警察の放水による農民殺し、成績の「悪い」労働者が自動的に解雇になる成果年棒制の導入などがそれだ。

だが、労働者民衆の闘いの火は消えなかった。規模がどれほど小さくても、人が少なくても、周りから関心を持たれなくても、孤立しても、活動家はピラをまき、集会デモで訴え、学習し、拳を上げ続けた。そうしたいくつもの細流が、「崔順実ゲート=朴槿恵ゲート」を機に、溜まりに溜まった民衆の怒りのマグマの爆発につながり、巨大な奔流に転化したのだ。

「労働者民衆が立ち上げれば政権を倒せるのだ！」「革命とはこういうことか！」(全てとは言わないが) 百万人の大衆の立ち上がりを見てそう思った。次をどう生かしていくのか？ 韓国労働者民衆とどのようにつながっていくべきなのか。実践の中で作り上げ、そして権力と資本に力一杯叩き付けるのだ。(迫田)



## 労働と貧困(2016年10月) 出典は東京新聞・朝日新聞

**1日** 厚生年金と健康保険の加入基準が変わり、週20時間以上働くパート女性ら短時間労働者にも拡大された。新たに加入対象となるのは約25万  
**7日** 厚労省によると、基本給や残業代を合計した1人当たりの現金給与総額は前年同月比0.1%減の27万1676円だった。3カ月ぶりに減少。

電通に勤めていた高橋まつりさんの昨年12月の自殺は直前に残業時間が大幅に増えたのが原因として三田労働基準監督署が9月30日付で労災認定。厚労省が「過労死等防止対策白書」を初めてまとめた。15年度に過労死で労災認定された人は96人、過労自殺(未遂を含む)による労災認定は93人。経団連がまとめた今年度の雇用分野の規制改革要望案で「日雇い派遣」の禁止の見直しやグループ企業内の派遣規制の廃止を求めていることが判明。

**14日** 厚生労働省東京労働局が労働者過労自殺で電通本社立ち入り調査。

**18日** 外国人技能実習生として岐阜県の鋳造会社に勤務し、2014年に死亡したフィリピン国籍のジョーイ・トクナンさん(当時27)について、岐阜労働基準監督署が8月、長時間労働が原因の過労死として労災認定していたことが判明。

**21日** 電通で、2013年に病死した男性社員が長時間労働による過労死として労災認定されていたことが判明。

**24日** 「働き方改革実現会議」第2回会合で安倍が「テレワーク」促進方針表明。

**25日** 介護現場で移住労働者受入拡大をもたらす外国人技能実習制度適正化法案と出入国管理及び難民認定法(入管法)改正法案が衆院本会議可決。

**27日** 佐川急便の男性社員(22)が自殺したのは上司のパワハラでうつ病になったのが原因だとして、労災と認めなかった仙台労働基準監督署長の決定を取り消すよう遺族が国に求めた訴訟の判決で、仙台地裁が自殺は労災だと認定。

**28日** 総務省によると9月の完全失業率は3.0%、就業者は同15万人(0.2%)減って6449万人。完全失業者は同8万人(3.8%)減って202万人。

厚労省によると希望者全員が65歳以上になっても働ける企業が全体の4分の3、70歳以上でも働ける企業の割合は21.2%。